

3. 目標事業量の設定

(1) 基本的な考え方

各事業の目標設定につきましては、子育て意向調査に基づいた各サービス毎のニーズ割合を将来推計人口（児童人口）に乗じて得ることが基本となっておりますが、その値を基に地域の実情を勘案して設定しております。なお、平成21年までの推計としています。

目標事業量算出手順	
1. ニーズ割合 =	$\frac{\text{意向調査での利用希望数}}{\text{意向調査の全回答者数}}$
2. ニーズ量 =	目標年の推計児童数 × ニーズ割合
3. 目標事業量 =	ニーズ量 - 対応の必要性がない事業量、対応困難な事業量

(2) 将来人口推計

将来人口の推計は、野田市総合計画及び関宿町総合計画との整合性を保ちつつ、過去の自然増減がそのまま継続すると仮定して算出した趨勢的将来人口に区画整理事業で見込まれる人口増を加算して将来推計人口を算出したものです。

区分	総人口	年少人口 (0歳～14歳)	生産年齢人口	老年人口 (65歳～)
平成16年	152,952	20,227	108,095	24,630
平成21年	165,230	23,064	109,860	32,306
増減	12,278	2,837	1,765	7,676

(3) 児童数推計

将来推計人口のうち、0歳から9歳までの児童人口の推計は以下のとおりです。

年齢	平成16年	平成21年	増減
就学前児童	7,420	8,786	1,366
0歳	1,096	1,326	230
1歳	1,163	1,449	286
2歳	1,296	1,472	176
3歳	1,255	1,486	231
4歳	1,268	1,533	265
5歳	1,342	1,520	178
小学校低学年児童	5,662	6,703	1,041
6歳	1,362	1,598	236
7歳	1,461	1,679	218
8歳	1,373	1,683	310
9歳	1,466	1,743	277

(4) 通常保育

平成 15 年 10 月に実施した子育て意向調査から、通常保育のニーズ割合を算出すると、0 歳児 6.8%、1 歳児 21.5%、2 歳児 23.8%、3 歳児 29.7%、4 歳児 26.0%、5 歳児 22.1% になり、各年齢の将来児童人口を乗じて得た数値がニーズ量になります。

区分	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
平成 16 年	54	180	299	341	336	339	1,549
平成 21 年	90	311	350	442	399	336	1,928
増減	36	131	51	101	63	3	379

平成 16 年は 4 月 1 日現在の入所児童数

各年齢ごとのニーズ量を合計すると、1,928 人となり、端数を切り上げた 1,930 人を通常保育の目標事業量とします。

(5) 延長保育（午前 7 時～午後 6 時を超える部分）

19 時までの延長保育のニーズ割合を算出すると、0 歳児 2.0%、1 歳児 3.9%、2 歳児 4.1%、3 歳児 5.8%、4 歳児 5.4%、5 歳児 5.9% になり、各年齢の将来児童人口を乗じて得た数値がニーズ量になります。20 時までやその他も同様にニーズ量を算出しますと、以下のとおりです。

年 齢	～ 19:00	～ 20:00	～ 21:00	～ 22:00	22:00～
0 歳児	26	1	0	0	0
1 歳児	57	4	0	2	2
2 歳児	60	4	1	3	3
3 歳児	87	4	1	0	0
4 歳児	83	2	0	0	0
5 歳児	89	15	4	9	9
合計	402	30	6	14	14

午後 6 時以降のニーズへの対応についてですが、午後 7 時までの延長保育は平成 14 年度から全保育所で実施しています。午後 7 時以降の延長保育は平成 15 年度から民間委託 2 園（あたご保育所：午後 8 時・南部保育所：午後 10 時）で行っており、平成 16 年度からは聖華保育園（午後 9 時）でも行っています。このことにより、目標事業量は現時点で満たしているものと考えています。

また、午後 10 時以降のニーズについては、南部保育所で実施している午後 10 時までの延長保育の利用実績が 3 人と少ないことから、目標事業量としては盛り込まず、今後の状況を見守りつつ、平成 22 年度からの計画策定時に検討することにします。

(6) 休日保育

休日保育のニーズ割合を算出すると、0.45% になり、将来児童人口を乗じて得た数値がニーズ量になります。

	平成 16 年	平成 21 年	増加
ニーズ量	20	40	20

平成 16 年はあたご保育所実施の休日保育定員数

ニーズ量は 40 人となり、休日保育の目標事業量とします。

(7) 学童保育

学童保育のニーズ割合を算出すると、1年生 25.5%、2年生 17.2%、3年生 12.2%、4年生 5.3%になり、各年齢の将来児童人口を乗じて得た数値がニーズ量になります。

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生以上	合計
平成16年	227	219	147	121	3	717
平成21年	407	289	206	93	0	995
増減	180	70	59	28	3	278

平成16年は4月1日現在の入所児童数

学童保育実施の1～4年生までのニーズ量は、995人となり、学童保育の目標事業量とします。

(8) 病児・病後児保育

病児・病後児保育のニーズ割合を算出すると、0歳児 0.3%、1歳児 0.41%、2歳児 0.41%、3歳児 0.4%、4歳児 0.39%、5歳児 0.39%になり、各年齢の将来児童人口を乗じて得た数値がニーズ量になります。

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
平成16年	4						4
平成21年	4	6	6	6	6	5	33
増減							29

平成16年は小張総合病院ひばりルームの定員数

ニーズ量は33人となりますが、病児・病後児保育の平成15年度の実施状況を見ると、1日平均利用者は1.09人と少ないため、平成21年度までについては現在の1ヶ所定員4人のままとします。

(9) 一時保育

一時保育のニーズ割合を算出すると、0歳児 0.23%、1歳児 0.28%、2歳児 0.34%、3歳児 0.87%、4歳児 0.52%、5歳児 0.66%になり、各年齢の将来児童人口を乗じて得た数値がニーズ量になります。

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
平成16年	9						9
平成21年	3	4	5	13	8	10	43
増減							34

平成16年は聖華保育園実施の一時保育定員数

ニーズ量は43人となり、一時保育の目標事業量とします。

(10) ファミリー・サポート・センター事業

ファミリー・サポート・センター事業のニーズ割合を算出すると、就学前児童 42%、小学生 35.9%になり、将来児童人口を乗じて得た数値がニーズ量になります。

	平成 16 年	平成 21 年	増加
ニーズ量	5,149	6,096	947
就学前児童	3,116	3,690	574
小学生	2,033	2,406	373

平成 16 年は 4 月 1 日現在の児童数にニーズ割合を乗じた数

ファミリー・サポート・センター事業は、利用会員と提供会員の間に入って仲介する仕組みとなっていることから、ニーズ量が多いからといって施設等の整備につながるものではありません。

(11) 地域子育て支援センター事業・つどいの広場事業

地域子育て支援センター事業・つどいの広場のニーズ割合を算出すると、53.7%になり、将来児童人口を乗じて得た数値がニーズ量になります。

	平成 16 年	平成 21 年	増加
ニーズ量	3,985	4,718	733

平成 16 年は 4 月 1 日現在の児童数にニーズ割合を乗じた数

現在、東部保育所と聖華保育園の 2 ヶ所整備されていますが、ニーズ量を満たしているとは言えず、新設の民間保育所に地域子育て支援センターを 2 ヶ所整備します。また、現在 2 ヶ所ある民間子育てサロン(地域子育て拠点)の利用促進を図るほかに、関宿地域に平成 17 年度以降につどいの広場を 1 ヶ所開設します。